

①本明川のナイアガラ



本明川にナイアガラの「タキ」？それはぜひ見てみたいね。川底の岩盤が露出してできたものでスモールナイアガラの景観です。

②四面河原のホタル



「四面河原に飛び交う螢、しのび歩きの影」つとわれたたほとりホタルが乱舞していたところでした。

③四面橋のとび石



このとび石は、長崎街道の一部です。シーボルトや竜馬も渡ったことではないでしょうか。

④石をたべる柳



川沿いの柳並木には、石を食べる柳もありましたが、食べすぎたのか大雨で倒木してしまいました。残った株からきつと新しい芽が芽吹くことでしょう。

⑤小野用水の水源



街中を巡回し諫早の生活用水として、また、田井原・小野地区の農地を潤す農業用水として昔から利用されてきました。「小野用水」は、長崎県で唯一疎水百選に選ばれています。この小野用水の源が山下淵です。

⑥公園堰の魚道



魚道は、堰を往来するための魚たちの通り道です。まん中の魚道はのぼりにくいので端に新しく設置されました。

⑦眼鏡橋と諫早公園



昭和三十三年七月二十五日の諫早大水害にたえた眼鏡橋は、その後、本明川の河川工事で川幅が拡張されることになり、諫早公園広場に移築復元されました。国指定重要文化財に指定されています。

⑨山下淵のナマズとカメ



山下淵にはナマズの伝説と諫早城の守りガメの話があり、今でも語り継がれています。

⑧城山の絶景



山下淵に接するこんもりとした山は、戦国時代に築かれた高城跡（諫早公園）です。初夏の新緑は、とにかく絶景で、城山全体が国指定天然記念物になっています。

⑩こどもたちの壁画



諫早市内のそれぞれ地域の学校の子供たちが、歴史、伝統芸能などを壁画にして道行く人の目を楽しませています。

⑪岩肌に刻まれた洪水位



昭和三十三年に六三〇名もの犠牲者を出した諫早大水害の洪水位が慶厳寺に刻まれています。忘れ去られていく水害の記憶・痕跡を後世に伝えるため、市内の数カ所にも水位標が設置されています。

⑬昔の石垣



諫早大水害前の本明川は川幅が狭く蛇行していましたが、水害後は川の拡幅工事でより40mを60mに広げられました。当時の石垣の一部が今でも川の流れるのに残っています。

⑫高城橋のこどもたち



高城橋を中心に、本明川一帯では「諫早方灯川まつり」が行われています。橋の欄干では、少年少女たちの情景が見られます。

⑭諫早水門



諫早水門の排水口は、観音開きといって、まん中から左右に開く扉になっており変わった型式で、全国でもめずらしい水門です。

⑮仲沖番所跡



江戸時代から軍艦や漁船、商船の出入りが多かったため、番所があり「ごばんし」と呼ばれていました。

⑯川の中のHマーク



本明川の河川敷を利用して整備されたHの印。ヘリコプターの発着場所として災害時や緊急時に広く活用されています。

⑰桜づつみ



本明川の桜づつみは、延長約1kmの間に、8種類（シロタエ、ミクルマギエシなど）、500本以上のヤエザクラが植えられています。県内一の規模とも言われており、市民の憩いの場として親しまれています。

⑱もぐり橋



川の水が増水した時は水中に沈み、川の流れが少なくなった時には姿を現して橋になり、対岸への往来、散策など地域の方に大いに役立っています。

本明川はるくマップ



本マップの掲載距離 ①～⑱までの距離約4km

本明川河川図(地図)作成 平尾正昭(本明川オビニオン懇談会)